

■ 生活関連動作とは？

生活関連動作 (Activities Parallel to Daily living ; APDL) は、ADL の範囲を規定したことによって生じた概念で、個人としての生活と社会人としての生活の中間に位置しているものである。したがって、その範囲は「家」とか「家族」という機能を維持していくために必要な、毎日繰り返している動作 (活動) 群に限られ、「社会組織」を維持するために必要な集団適応行動や各種の生産活動は除外するのが適当であると述べている。(伊藤利之氏, 543 頁)

■ 障害をもつ主婦が家事技術を再獲得するために OT は何をすべきか

家事技能訓練における OT の役割は、1) 家事動作の分析, 2) 作業簡素化の指導, 3) 身体的能力に適した環境調整, 4) 作業能力改善の援助, 5) 心理的サポートである。なかでも訓練の成否を握る鍵は、単なる動作訓練や環境整備にとどまらず、家族を含めた心理的サポートの体制を整えることであると主張している。(星 文子氏, 549 頁)

■ 外出訓練は必要か、誰がどこで行うべきか？

現代社会においては、「外出」は日常的に欠かすことができない課題であり、医学的リハビリテーションの段階からアプローチすべきとの見解に立ち、その実際を紹介。実施にあたっては、従来からの医学的リハビリテーション・チームだけでなく、医療体育指導員、リハビリテーション工学技師、地域リハビリテーション・システムのスタッフなど、多くの職種の関与が求められており、その身分制度の充実化を強調している。(鳥羽寿範氏ら, 557 頁)

■ 「公共交通機関の利用」は生活関連動作領域の「移動」のプログラムとして大きな位置を占めている

公共交通機関の利用訓練は、身体障害者更生施設における社会生活技術訓練の中でも重要な位置を占めている。目標達成率は概ね 80% であったが、障害別では頭部外傷で 57.1% と低く、高次脳機能障害や知的障害が主な阻害因子ではないかと指摘している。(佐々木葉子氏ら, 563 頁)

■ 社会参加とは何か？ それに必要な環境整備について紹介

普通の人のごく普通の生活に現れるいろいろなことを、あたりまえのこととして行えることが社会参加であり、「誰かとコミュニケーションを取る」ことは社会参加に不可欠な要素である。このような視点から、住居から戸外へ、パーソナル・トランスポーターション、コミュニケーション手段について紹介。今後は、高齢者、障害者といったキーワードで画一的な整備を行うのではなく、多様なニーズに対して多様な解答を用意する、生活者主体の整備が重要であると述べている。(相良二郎氏, 571 頁)

■ 講座「リハビリテーション医療の経済と経営」(新連載)

二木氏の力作、全 5 回の連載である。今回は、主に厚生省「社会医療診療行為別調査」の紹介と分析である。(二木 立氏, 593 頁)

■ 実践講座「リハビリテーション看護テクニック」(新連載)

第 1 回は、嚥下と排尿障害の自立への援助を中心に、症例を通してその経過を具体的に解説。リハビリテーションに関わる看護婦必読の講座！(清水邦子氏ら, 603 頁)